

# こごみ 日和60

特集：グリーンキーパーと歩んできた5年間

～京都光華女子大学 地域連携推進センター

センター長 高野拓樹さん～

ごみ減量会員さん訪問記「ごみ減の会員さんってどんな方?」:

京都銀行さん

なごみ日和：KBS京都 アナウンサー 海平 和

コラム：これっているかしら?

缶ビールの6缶パックパッケージ

活動報告：平成25年度 市民等からの提案による

ごみ減量モデル事業（助成事業） 成果報告会

地域活動レポート：演じて、伝えて、エコパワー発信

小学生たちの力を伸ばす活動

～九条地域ごみ減量推進会～



土と対話し、  
草木を愛でる心を育てる  
本当の優しさは、  
生きものが教えてくれる—



写真 高野拓樹（京都光華女子大学 准教授）

「こごみ日和」は、京都市役所、各区役所・支所のエコまちステーション、京都市図書館、京都生協（市内店舗）などで手に取っていただけます。最新号・バックナンバーもウェブで公開中！ <http://kyoto-gomigen.jp/>



手をとって ぐみを減らそう！

京都市ごみ減量推進会議

🔍 ごみ減

検索 🔍

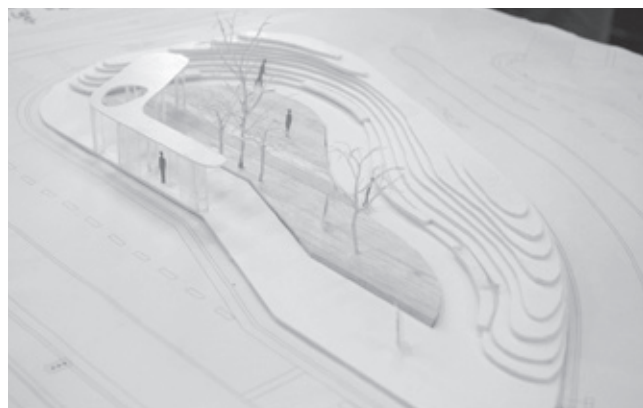
## グリーンキーパーと 歩んできた5年間

～京都光華女子大学 地域連携推進センター  
センター長 高野拓樹さん～

この春より、当会議普及啓発実行委員会 会報誌小委員会では、京都光華女子大学地域連携推進センター長の高野拓樹先生を幹事に迎え、活動を進めていきます。今号では、高野先生率いる京都光華女子大学の環境活動や地域連携の最前線をご紹介しますと共に、今後の活動目標についてお話を伺いました。

### 「チーム西京極」、地域連携の可能性

高野先生の研究室に伺って、すぐに目に飛び込んで来たのは白い広場の模型。ゆるやかな丘陵にはベンチが配され、ウッドデッキでは人々がのんびりと寛いでいます。「この模型は、西京極駅前の緑地帯を、地域の憩いの場としてもっと活用していきたい、という地域の皆さんの想いが詰まったものです」と高野先生。西京極の駅前には巨大なケヤキが植えられており、近年、落ち葉の管理や鳥の糞の始末が課題となっていました。そこで、平成25年、右京区役所の呼び掛けにより、駅前緑地帯整備事業を推進する「チーム西京極」が結成されました。「地域住民や近隣企業、関係団体、行政と一緒に駅前広場の‘理想の姿’を話し合う場を何度も持ち、地域連携推進センターでは環境面のアドバイスをを行うなど、積極的な意見交換を行いました。10年後、20年後を見据えた、まちづくり、環境づくりの



西京極駅前緑地帯の模型

大切さを、地域の皆さんと共有できた意義は大変大きいです」高野先生の熱意がひしひしと伝わってきます。伐採したケヤキは、京都光華女子大学の環境ボランティアサークル「グリーンキーパー」の学生たちが製材し、椅子や花壇、掲示板などをつくり、平成26年度中に完成予定の駅前広場でお披露目される計画です。

### 「グリーンキーパー」の活動とは

「グリーンキーパー」は平成17年に発足した学生サークルで、現在1・2回生を中心に、約30名が活動に参加しています。学内の緑化に加え、平成22年には京都市内にあ

る街頭ごみ容器の分別率を向上させるために、右京区民の皆さんと一緒に分別シールのデザインを考案。候補の中から、どれが一番伝わりやすいのか、実際に街の人々にも調査に協力してもらい、工夫を重ねました。出来上がった分別シールは「とても分かりやすい」と観光地などでも好評

で、「自分たちの力を、地域に役立てることができるんだ！」という実感は、学生たちの大きな自信に繋がりました。他にも、環境学で学んだ知識を活かし、南丹市にある京都大

学芦生研究林でフィールドワークを行ったり、近年深刻化しているシカなどの獣害対策にも取り組んでいます。

## 「一鉢の苗木から緑のまちづくり」を合言葉に

グリーンキーパーの代表である佐々木宏美さん（2回生）は、草木との触れ合いを求めて本サークルに入部。年に2回行われる学内の花壇の植え替えでは、1回生に指示を出しながらも慣れた手つきでどんどん草花を植えていきます。今では、学外からも「花壇づくりに協力してほしい」と依頼が来るそうで、この日は京都府立東稜高等学校での花壇づくりのための、綿密な打合せが行われていました。「この場所にはこんな花を植えたい」と、佐々木さん



街頭ごみの計量の様子

が作成した植え込みプランを見ながら、高野先生の指導にも力が入ります。「本学では、学生の活動を事務局や教職員がとても応援してくれます。グリーンキーパーが地域や他の教育機関とス



学内緑化の様子

ムズに連携できるのは、私たちの活動を理解し、サポートしてくれる大学の協力体制があるからです。」質の高い地域貢献を実現するためには、信頼関係を築くことが大切です。「一鉢の苗木から緑のまちづくり」を目標に始まったグリーンキーパーの活動は、今では光華女子学園の環境活動の要となっています。

## 環境を大切にできる大人に

“環境活動は面白い！”という雰囲気を作ることが、自身の役目と考える高野先生。今後は、学生が自分たちで活



高野先生

動計画を練り、それを実行する力を身に付けて欲しいと願っています。また、環境分野は、女性の持つ優しさや細やかな気付きを存分に活かせる分野だとも仰います。光華女子学園は、幼稚園から大学院までの学齢が揃う一貫校。大学生と中高生と一緒に環境活動を行ったり、大学生が小学生に環境教育を行ったりと、学内での交流を更に活発化し、他大学との研究協力も深めていきたいと考えていらっしゃいます。

最後に、高野先生にグリーンキーパーのメンバーの印象を伺いました。「みんな、とてもピュア（純粋）ですね。」女性が自然体で活躍できる場を育てたい、高野先生の挑戦は続きます。

### 京都光華女子大学 地域連携推進センター

住所 ▶ 〒615-0882 京都市右京区西京極葛野町38

URL ▶ <http://www.koka.ac.jp/crc/>

松村香代子（平成26年5月31日取材）